

日坂小学校・東山口小学校統合準備委員会（第3回総務部会） 協議録

日時	令和7年9月18日(木) 19:00~20:30
場所	東山口地域生涯学習センター
出席者	委員 19名 事務局 学校再編室長、学校再編係長、学校再編係主任、学校再編係事務員
内容	
1	開 会
2	あいさつ (学校再編室長) <ul style="list-style-type: none"> ■ 前回の総務部会では、新たな学校づくりに向けた取り組みについて、ワークショップを行った。また、小小交流の様子について、加藤校長より説明をいただいた。 ■ 本日は、これまでの協議を踏まえて、統合に向けた個別具体的な事項について、取り組み内容や進め方などを各グループで検討し、全体で共有していただきたいと考えている。子どもたちや保護者、地域の皆様が良かったと思える統合が実現できるように歩みを進めていきたいと考えているため、引き続きご理解とご協力をいただきたい。
3	協議事項 <p>(1)前回の振り返り</p> <p>資料1：前回のワークショップ①のとりまとめ 資料2：前回のワークショップ②のとりまとめ <事務局説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ワークショップ①では「こんな統合になると素敵だな」というテーマで取り組んでいただいた。出された意見は、主に3つの視点に分けられる。 ■ 1つ目は「子どもたちにとって」という視点である。出された意見の3分の2を占める。環境の変化を不安視する意見が出された一方で、統合によって人数が増えることを期待する意見も寄せられた。 ■ 2つ目は「地区や地域にとって」という視点である。出された意見の約2割を占めていた。子どもたちが栄川地域について学ぶこと、地域に根差した学校であることなど、地域と子どもたちの関係、地域と学校の関係についての意見をいただいた。 ■ 3つ目は「保護者や地域住民にとって」という視点である。出された意見の約1割を占めていた。先程の「地区や地域にとって」の視点と関係する部分ではあるが、「人」をイメージしていただいた意見であるため、分けてまとめさせていただいた。子どもたちと地域住民の交流の場にしたい、保護者のネットワークを増やしたい、学校に協力してくれる人を増やしたいなどの意見をいただいた。 ■ ワークショップ②では「子どもたちが新たなスタートを切ることができる取組を考えよう」というテーマで取り組んでいただいた。出された意見は、主に5つの視点に分けられる。 ■ 1つ目は「子どもたちが主体的に関わる取組と新しい学校という意識の醸成」という視点。子どもたちが主体的に新しい学校づくりに取り組むという意見や、新しい学校づくりを象徴するような取り組みを行えば良いという意見をいただいた。 ■ 2つ目は「子どもたちの心のケアと安心できる環境づくり」という視点。子どもたちが不安を感じない環境づくりや、不安を感じる子どもに対して早期にケアを行うことの必要性について意見をいただいた。

- 3つ目は「子どもたちと地域とのつながりを深める取組」という視点。地域教材を生かした学習活動や、地域と学校の交流促進について意見をいただいた。
- 4つ目は「教育環境の整備と充実」という視点。ほっと一息できる居場所づくりや、明るく綺麗な学校施設にするなど、施設の整備に関する意見をいただいた。
- 5つ目は「保護者や地域住民との情報共有」という視点。統合に向けた検討状況を地域の方に周知することや、地域の意向を伺うなどの意見が出された。

資料4：子どもたちが新たなスタートを切ることができる取組カルテ

<事務局説明>

- 資料4では、ワークショップで出された意見を参考に、統合に向けた取り組みについて、実施主体にかかる負担の大きさや費用、期間、手続きの煩雑さについて取りまとめている。取り組みを企画・実行する際は、誰にどのような負担がかかるのか、ある程度想定した上で実施の可否を検討する必要がある。
- 取組カルテでは、ワークショップで出された意見を8つの方針にグループ分けしており、内容や目的、具体的な取り組みの例を記載している。
- 「実施時期」の欄では、統合前と統合後のどちらに実施することが望ましいか記載している。また、「実施主体」「実現可能性」の欄では、実施主体は誰か、実施した場合の負担の大きさについて、それぞれ3段階で表している。

<委員意見>

- 資料1について、地区・地域と地域住民の区別の仕方がわからない
→地区や地域について表現されているものと、より「人」がイメージされているものに分けている。
- これまでの協議の中で「新しい学校」という視点で意見が出されていたが、なぜ資料1で取り上げていないのか。前回のワークショップでは、どのグループからも「新しい学校」という視点から意見が出されていたはずだ。
→子どもたちや保護者、地域という視点で意見をまとめているため、抜けてしまっている表現がある。
- 資料中では、地区や地域、学区といった表現がされているが、統合後に3地区を指す表現は決まっているのか。
→掛川市では、地区区長会の範囲を「地区」と呼んでいる。それより広いエリアを指す表現は正式に決まっていない。どのような呼称にするか検討していただければと思うが、ルールが決まっている「地区」という呼び方は避けた方が良いと考えている。
- 事前に資料4が配布され、方針ごとに実現可能性を記入する作業があったが、個人的に答えにくかった。留意点などが記載されていると、意見誘導されているように感じる。特に、実施主体の負担について3段階で評価されているが、これまでの協議の中で、保護者や地域が協力し、学校の負担を軽減するという意見が何度も出ている。そのような意見も踏まえて、資料を作成していただきたい。
→負担や費用については、各個人で捉え方が違う部分があると感じている。特に、校名変更については、備品シールの張り替え等を保護者や地域が協力することで、学校の負担を軽減するという提案も把握している。それでもなお、学校現場に大きな負担がかかるという点に留意していただきたいため、今回はこのような記載をさせていただいている。

(2) 統合に向けて取り組む事項の検討

資料3：第3回総務部会話し合いの進め方

<事務局説明>

- 今回の話し合いでは、統合に向けて具体的にどのような取り組みを行うのか検討していただく。
- 事前に、実施主体の負担の大きさ等も踏まえて、取組カルテの方針ごとに実現可能性を考えていただいている。そちらを参考に、最も取り組むべきだと思う方針を1つ選び、選んだ理由と具体的にを行う取り組みを記入していただく。
- 個人の意見をグループで共有する。その後、各グループで、効果と実現性が最も高いと考える方針を1つ抽出し、選んだ理由や実施する上での課題、その解決策について検討していただきたい。
- 最後に、グループごとに検討結果を発表していただく。
- 今回の話し合いは、実際に行う取り組みを決めるためではなく、実施する上での効果や課題に視点を置いて検討することを目的としている。

<3グループに分かれてのワークショップ>

<発表>

【グループA】

- 選んだ取組は、①新たな学校づくりに向けた意識の醸成と⑤地域を教材とした学習や活動の推進である。ただし、子どもたちが混乱しないように、検討内容を統合準備委員会で決めておく必要がある。
- 例えば、⑤に各地区の文化や伝統に触れるとあるが、子どもたちに何を学んで欲しいかという具体的なテーマは、大人が考えるべきだ。校名や校章などについても、子どもたちに自由に考えさせてしまうと、話し合いが上手く進まないのではないかと。ある程度の方向性を示した上で、子どもたちが意見を出しやすいように配慮することが大切だと考えている。
- 統合準備委員会で検討事項を整理することで、子どもたちが新しい学校に対してイメージしやすくなり、楽しいと感じてもらえるのではないかと。
- ⑤については、学校での学習活動と、地域が主体となって行う活動を分けて考える必要がある。地域との交流が増えれば良い。
- 実施するためには、スケジュールを決めたり、既存のツールも活用したりしながら、具体的に検討していく必要がある。

【グループB】

- 子どもが主体となって考え、実践することができる学校にしたいという意見が出た。
- 取組イメージは、イベントを考える、係や委員会を決める、期待する新しい学校について親子で作文を綴る、仲良くなるための作戦を事前に考えるなどが挙げられた。
- 期待される効果は、新しい学校に対する期待感を醸成することが挙げられた。
- 実施する上での課題は、日坂小学校と東山口小学校の子どもたちが一緒に考えられるように配慮すること、多様な子どもたちの気持ちに寄り添うことが挙げられた。

【グループ C】

- 選んだ取組は、子どもたちが主体となってイベントを企画・実施することである。
- 取組のイメージとしては、遊びや名刺交換、スポーツ大会などを子どもたちが主体となって企画・実施することが挙げられた。特に、スポーツについては、日坂小学校で団体競技ができないため、そのような経験をさせてあげたい。
- 期待される効果は、統合までの楽しみを作る、統合を目指す目的ができる、子どもたちの実感が湧く、子どもたちの一体感が生まれるなどが挙げられた。
- 実施する上での課題は、子どもたちが考える時間を多く設ける必要がある、子どもたちが意見を言い合える環境づくりなどが挙げられた。また、家庭で企画について話すなど、親のサポートがあれば、子どもたちの本音が出て、良い環境が作れるのではないかと。

【グループ D】

- 選んだ取組は、④保護者や地域が主体となった心のケアと環境作りと⑥地域と子どもたち・学校との交流の促進である。
- 子どもたちが安全や安心に学校生活を送るためには、地域住民の見守りが大切であり、それを支える組織が必要である。例えば、この統合準備委員会を、統合後も名前を変えて継続すれば良いのではないかとという意見が出た。
- 期待される効果としては、地域や保護者の交流を促進できることが挙げられた。
- 実施する上での課題は、委員の負担が増えることが挙げられた。

<部会長>

- 予定では、全体協議の中で、委員の皆さんから発表されたものを含めて、行うべきだと思う取組を挙げていただき、メリットや課題点を協議していただくことを考えていたが、終了時刻となったため、次回の総務部会で行う。

<事務局>

- 本日の協議では、選んだ取り組みを行う上で、どのような効果や課題があるのかという視点で検討していただいた。次回の全体協議では、皆さんが本当にやりたいと思う取り組みを挙げていただき、その際に考えられる効果や課題について検討していきたいと考えている。
- すべての取り組みを行うことが理想であるが、限られた人員の中で取り組むことが難しいため、ある程度の方針を次回の総務部会で取りまとめたいと考えている。

(3) 事務連絡

- 次回開催予定：10月29日（水）19:00～ 日坂地域生涯学習センター

4 閉 会